

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (北海道)		-	-	-
		一般小売店〔土産〕（経営者）	お客様の様子	・台風18号の上陸があったにもかかわらず、外国人観光客、国内観光客共増えており、今までになかった雰囲気の良いところがある。
		百貨店（売場主任）	単価の動き	・来客数は前年比97%台で推移している一方で、売上は前年比105%台に増加した。高額ブランドや宝飾品の売上が伸びているなど、特に高額商材の動きが好調であり、客の買上単価アップにつながっている。
		スーパー（店長）	単価の動き	・来客数は全体的に伸び悩んでいるが、商品単価の上昇により客単価が伸びている。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・たばこなどの嗜好品の売上が回復してきている。また、生活になくても構わないような商材の売上も回復してきている。
		衣料品専門店（店長）	単価の動き	・高額のオーダースーツが前年比120%と好調に推移している。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・需要の落ち込む冬を前にしたタイミングということもあるが、9月の決算期を迎えて、複数の車種の新型車効果が重なってきており、3か月前に比べて景気が良くなってきている。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・わずかではあるが、新車販売台数が前年を上回って推移している。
		自動車備品販売店（店長）	販売量の動き	・冬タイヤと一緒に冬用ワイパーなどの冬季商材が売れている。また、バッテリーやオイルなどの消耗品の販売量も前年比120%と伸びている。
		住関連専門店（経営者）	販売量の動き	・商店街においてインバウンド効果が続いている。
		一般レストラン（スタッフ）	単価の動き	・6～8月に引き続き、9月も客単価、来客数共に前年を上回っている。
		商店街（代表者）	単価の動き	・天候不順であった割に、イベントなどへの人出はまずまずであったが、売上にはなかなか結び付いてこない。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・客の様子をみても、日々淡々と過ごしている。北朝鮮の弾道ミサイルが発射された際も、あまり脅威を感じているような反応はみられなかった。また、それにより経済活動が停滞するということもなかった。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・商店街で運用を開始したフリーWi-Fiの影響などもあり、9月初旬から中旬にかけては若年層を中心に来街者が増加したが、下旬は雨模様の天候が続いたことから、地元客の来街が減少した。ただ、中旬以降は少数グループの外国人観光客が比較的多くみられたことで、地元客の落ち込みをカバーしており、全体的には大きな落ち込みにはならなかった。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・天候不順の影響で9月の一般消費は落ち込んでいる。観光客の入込は、外国人観光客は変わらないが、国内観光客が減少している。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・夏が過ぎると同時に客足が落ちてきている。
	百貨店（担当者）	単価の動き	・周辺の商業施設との相乗効果もあり、当店の来客数は相変わらず増加傾向で推移しているが、買上客数及び客単価の動きにそれほど変化がみられないことから、景気は変わらない。	
	百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・9月中旬以降、来客数、買上率がマイナス傾向、客単価がプラス傾向で推移している。これは日常の買物をするような地元客が減少している一方で、外国人客が増加していることで、客単価を押し上げているためである。結果的に売上は前年を上回って推移しているが、全体的に客の購買意欲は決して高くない状況にある。	
	百貨店（役員）	来客数の動き	・テナントの一部変更の影響もあり、景気は3か月前と変わらない。	
	スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数の前年割れが続いている。新規スーパー出店の影響もあるが、近隣スーパー各社がディスカウント合戦となっており、厳しい状況にある。客の節約志向も変わっておらず、景気は3か月前と変わっていない。	
	スーパー（店長）	単価の動き	・ここ数か月、来客数が10%以上減少する月が続いている。売上も前年から9～10%程度のマイナスとなっている。	

スーパー（役員）	来客数の動き	・人口減少が続くなか、競合店との客の奪い合いで各店の来客数が減少している。客単価や客1人当たりの平均買上点数は前年から1～2%上昇しているものの、来客数が前年から2%低下しており、決して良い状況とはいえない。
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・8月に引き続き天候に恵まれなかったことで、飲料水や冷菓などの動きが悪い。また、3連休についても台風の影響で売上、来客数共に減少した。
コンビニ（店長）	来客数の動き	・9月は天候不順や台風上陸の影響が大きく、来客数は前年を大きく下回った。また、それに伴い飲料や主食系商材の販売量が落ち込み、売上も前年割れとなった。
高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・景気が良いといわれるのは東京だけであり、地方は段々と疲弊してきている。また、原材料の値上がりが進んでいるため、全体的に単価を引き上げることを予定している。
高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・昼はこれまでと同様に午後2時頃まで満席の続く日が多かったが、2度の連休が悪天候となった影響もあり、大幅に前年を下回った。夜は大学生や年配の夫婦、シーズン外れの観光客が多くみられた。全体売上は前年を9%下回ったが、地元観光施設の入込数が前年を25%下回っている状況を考慮すると健闘している。
高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・売上は前年並みであった。例年9月は祝日が2回あり、消費がレジャーに向けられることで売上がやや落ちるが、今年はそれほど影響がみられなかった。また、連休前後のランチは売上の良くない日が多いが、25日だけは給料日ということもあり、混雑した。
観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・中国、台湾、韓国などの外国人客の動員が堅調である。その反面、国内からの募集企画商品の動員が不振であった。
タクシー運転手	来客数の動き	・前月までと同様、乗務員不足の影響でタクシーの稼働率が低下している。タクシー1台当たりの売上は前年から約4%増加しているものの、会社としての売上は前年から約2%減少している。
タクシー運転手	来客数の動き	・観光客の利用が若干少なかったが、イベント関係者からのオーダーが順調であり、全体的にあまり変化のない月であった。
タクシー運転手	販売量の動き	・離職者があったため、事業維持に注力する必要性が生じている。販売量が人員数に比例する当業界としては大変苦しい状況にある。
通信会社（社員）	販売量の動き	・定期発売商材のリリースが2段階となったことで、見込んでいたほど販売に結び付かなかった。
美容室（経営者）	来客数の動き	・人の動きの活発な夏を過ぎても、夏とほぼ同じような来店率で推移しており、売上を維持できている。堅調に推移している。
美容室（経営者）	来客数の動き	・新規客の数は増えていないものの、既存客の単価が上がってきている。
住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・客が分譲マンションの購入を判断するために、以前よりも長い時間をかけるようになってきており、商談にかかる時間が長期化してきている。
百貨店（営業販売担当）	来客数の動き	・前年は8月後半の台風被害の影響で苦戦が続いたため、今年9月以降は来客数、売上が回復することを期待していたが、9月の来客数は前年を下回っている。売上もほぼ横ばいと回復からはほど遠い状況にある。特にこれまで好調に推移していた食品が来客数減少の影響でマイナスとなっている。
スーパー（企画担当）	競争相手の様子	・大手小売業を始め、競合各社による価格引下げの動きが激しくなってきた。当社を含めた各社の店頭売価はデフレに逆戻りしたかのようである。
スーパー（役員）	お客様の様子	・総菜店でのO157による食中毒の報道を受けて、今まで好調だった総菜類の売上が悪化している。
衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・来客数が前年を下回って推移している。
家電量販店（店員）	来客数の動き	・7月の猛暑で冷房機などがよく売れたことの反動で、9月も来客数が少なかった。
乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・新型車など、話題の少なさが影響している面もあるが、地場の基幹産業が奮わないことが売上に大きく響いている。

	乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・年初、年央と新型車が3車種ほど導入されているが、すでに新型車効果が薄れており、販売量がダウンしている。
	高級レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・これまで来客数がそれなりに増加してきていたが、現在は落ち込みがみられ始めている。9月の来客数は前年を上回っているが、前年は大型台風の被害で来客数が大幅に減少しており、その影響を考慮すると例年よりも減少傾向にある。
	旅行代理店(従業員)	来客数の動き	・夏場の観光シーズンが終わり、観光客が減少している。また、スポーツ合宿もピークが過ぎており、全体的に集客が落ち込んでいる。
	タクシー運転手	販売量の動き	・当市の人口が少しずつ減っていることもあり、同業他社も含めた市内全体での売上も減少している。
	タクシー運転手	お客様の様子	・3か月前と比べて、売上が2～3%落ち込んでいる。9月の売上は北海道新幹線開業前の前々年と比べても減っており、景気回復の実感もない。
	通信会社(企画担当)	お客様の様子	・この秋は話題のスマートフォンの発売に伴う販売増を期待していたが、販売量は前年の8割程度と低迷している。特に地方部の量販店での苦戦が目立つ。
	観光名所(従業員)	来客数の動き	・9月は8月に引き続き天候不良の日が多く、利用乗降客数の大幅な減少につながっている。9月25日時点の前年比は約79%となっている。ただ、天候の良好な日に限れば、いまだに集客の勢いが感じられる。
	その他サービスの動向を把握できる者[フェリー](従業員)	来客数の動き	・台風の接近に伴う輸送量の減少がみられた。
	住宅販売会社(経営者)	来客数の動き	・北海道はめったに台風が上陸しないが、9月は台風の上陸があった。また、ゲリラ豪雨などもあったため、多くの部門で客足が鈍るなど、影響がみられた。
	× 一般小売店[酒](経営者)	販売量の動き	・9月は特に入出が少なかったため、飲食店の販売量が極端に落ち込んでおり、当店の売上にも影響があった。
	× コンビニ(オーナー)	来客数の動き	・外国人観光客が減っている。
	× その他専門店[医薬品](経営者)	来客数の動き	・年金の支給月とそれ以外の月で、売上、来客数に顕著な差が表れ始めており、顧客の高齢化と買い控えの影響が大きくなってきている。
	× 観光型ホテル(役員)	来客数の動き	・国内客、外国人客共、個人旅行、団体旅行を問わず全ての動きが悪い。9月は紅葉の観光シーズンのピークだが、今年の集客状況はあまり良くない。台風に関する報道などを受けてのキャンセルも多数みられる。また、北朝鮮による弾道ミサイルの発射を懸念した外国人の団体観光客のキャンセルも発生している。
	× タクシー運転手	販売量の動き	・運送収入が大幅に下落した。夜の酔客の利用が低迷している。観光客の入込はあるものの、タクシー利用にはつながっていない。
企業動向関連 (北海道)	*	*	*
	建設業(役員)	受注量や販売量の動き	・足元の完成工事高が事業計画を上回る水準にあるなど、好調に推移している。利益面においても、利益率の高い小規模工事の積み上げで計画不足分をカバーできている。
	コピーサービス業(従業員)	受注価格や販売価格の動き	・車業界の需要が好調である。新店舗開店や本社社屋建て替えなどに伴う積極的な話がよくみられる。
	食料品製造業(従業員)	受注量や販売量の動き	・売上、利益共に3か月前とほぼ変わらない。
	家具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・北朝鮮問題や国内政治の不安定化などの外的なマイナス要素が地方経済にも悪影響を与えている。特に、百貨店を始めとして小売業が良くない。一方、請負契約物件は順調に推移している。
	建設業(従業員)	受注価格や販売価格の動き	・10億円程度の民間建築工事に対して見積対応できる建設会社が少なくなっている。見積価格もそれなりであり、建設会社が上位となった選別受注が続いている。
	輸送業(支店長)	受注量や販売量の動き	・全般的に道外からの移入貨物、輸出入貨物は順調に推移している。その一方で、道外への移出貨物については、工事物件を始め、農産物以外、厳しい状態が続いている。

	輸送業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・7月は長期予報どおり猛暑となり、飲料関連の輸送も順調であったが、それ以降、気温がそれほど上がらなかったこともあり、伸び悩んでいる。
	金融業（従業員）	取引先の様子	・観光については、外国人観光客の増勢が続く一方、道南で北海道新幹線の開業効果の反動がみられる。その他の業種は高水準ながらも回復に一服感がみられる。道内景気は3か月前と比べて横ばいでの推移となっている。
	司法書士	取引先の様子	・人口減少や高齢化の影響により、不動産取引や建物の新築などが低水準のまま推移している。
	司法書士	取引先の様子	・景気回復や景気悪化の兆しが特にあるわけではないが、大手デベロッパーのマンションが建設中であることから、着工件数などが一服状態にある。
	その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・前年の台風被害に伴う復旧需要がやや減ってきているものの、依然として一定水準を保っている。
	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・売上の前期比は引き続き伸びているものの、伸び率が鈍化してきている。
	*	*	*
x	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・6月の販売量は前年比プラス9%であったが、9月の販売量は前年比マイナス1%見込みとなっており、3か月前と比べて落ち込んでいる。
雇用関連 (北海道)	-	-	-
	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・中途採用の求人は増加傾向にある。営業やIT、建設関係などの技術系でのニーズが高いことから、企業の業績が好調なことがうかがえる。また、派遣スタッフの稼動も上向いており、企業の業績回復による処理作業の増加に伴い、派遣ニーズが高まっていることがうかがえる。当社が行政官庁から受託している雇用対策事業においても、当社で受け入れた長期の失職者が多数の企業に採用されており、こうしたことから企業業績が上向いているようにみえる。
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・前年と比較して、求人広告件数がやや伸びている。企業の人手不足による面が大きいのが、業績が良い、先々の仕事があるといった理由も聞かれるようになった。ただ、個人所得が伸びていない現状からは、景気が良くなったと手放しで喜べる状況ではない。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・観光客の入込が順調に推移していることから、サービス業を中心とした企業の業況が好調に推移している。
	学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・百貨店、スーパー、カーディーラー、ホテルなどの新卒採用担当者から、景気の良さに裏打ちされた採用活動が継続しているとの話を聞く。また、11月頃までは新卒予定枠の確保を掲げていることから、当面は学生の売手市場が続く。
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・求人広告の受案件数に大きな変化がみられない。
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・建設業界、運輸業界の求人が増加している。飲食店など、個人消費関連の求人も前年よりも増加している。ただ、求人を出しても採用が決まらないことが求人の増加要因となっている面もある。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・月間有効求職者数が5年10か月連続で前年を下回り、月間有効求人数が7か月連続で前年を上回ったことから、有効求人倍率は1.03倍と前年を7年6か月連続で上回った。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・建設関連業種において、これまで求人を出していなかった事業所が求人を申し込むなど、募集活動が活発化しており、新規求人数が増加の一途をたどっている。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・8月の有効求人倍率は1.07倍と高い水準で推移しており、業種によっては人手不足の状況が深刻化している。
	*	*	*
x	-	-	-